

2016年度

事業報告書

鎮西学院本部

鎮西学院幼稚園

鎮西学院高等学校

長崎ウエスレヤン大学

学校法人 鎮西学院

長崎県諫早市西栄田町 1212 番地 1

学 院 本 部

2016年度鎮西学院本部事業報告

◆創立 135 周年事業

2016 年は鎮西学院創立 135 周年の年であった。8 月 8 日には、長崎市の鎮西学院旧校地から現在のキャンパスまで、全学院を挙げての平和大行進を成功裏に実施した。また、10 月 7 日には諫早文化会館で、記念式典と姜尚中鎮西学院教育顧問による記念講演『平和のために何が出来るか』を行った。

また 11 月 25 日に記念番組「風響くあの丘へ～姜尚中 鎮西学院ゆかりの地を訪ねて」がテレビ長崎から放映された。鎮西学院人物伝「敬天愛人の系譜」を発刊して生徒・学生や全国の校友に頒布した。12 月には 135 周年を記念して、諫早市民クリスマスコンサートに新垣勉師を招聘し、スペシャルライブを行い好評を博した。3 月には、鎮西学院講堂の耐震改修工事が完成し、献堂式を行った。4 月になるが、135 周年事業の一貫として鎮西学院・諫早旧校舎跡に記念碑を建立した。4 月 8 日に除幕式を実施した。

◆2016 年の校勢について

135 周年に相応しく高等学校陸上部が長崎県駅伝大会で優勝して京都の全国大会に出場し大いに県内を沸かせた。高等学校卓球部も大活躍して全国大会に出場している。高等学校女子サッカー部も大活躍して九州の名門校となった。高等学校バレー部男子は、県内準優勝しており、学内を沸かせた。大学では、ビブリオバトルで全国大会に出場し決勝戦で京都大学と対決、準優勝を獲得している。鎮西学院の生徒・学生たちの活躍は、135 周年の記念の年に相応しく大いに校勢を奮わせた。

幼稚園では、園児が対前年度比で 10 名の減少を記録したが、3 月末の保護者の転勤等による要因である。高等学校では、対前年度比で 50 名の減少を示した。要因は、商業科の減少であった。普通科は、前年度と同数であった。進学実績が認められたのである。大学は、対前年度比で 5 名の増加を記録している。学院全体の園児・生徒・学生数は、対前年度比で 82 名の減少を記録した。全体的にいえば、少子化が確実に進行しているということであろう。これを反映して貸借対照表も僅かながら悪化している。財政的には、校勢は、若干縮減している。

「鎮西学院経営改善改革」は、2 年目に入った。校勢が僅かに縮減しているのは残念だが、「鎮西学院経営改善計画」に従って 2017 年度も経営が行われることになる。2017 年 3 月から、理事会で決定された鎮西学院長期ビジョン策定委員会が開催されており、県内有力企業の経営者を含めて検討が続けられている。大学再建案は、2017 年 10 月理事会へ答申されることになっている。

◆建学の精神

敬天愛人を基として、キリスト教精神に基づく人格教育を行い、品性高潔なる人格の育成をもって社会と世界に貢献する。

この建学の精神に則り、長崎ウエスレヤン大学、鎮西学院高等学校、鎮西学院幼稚園を運営する。

◆2016年度 学院目標聖句

「確かに未来はある。あなたの希望が断たれることはない。」

旧約聖書：箴言 23 章 18 節

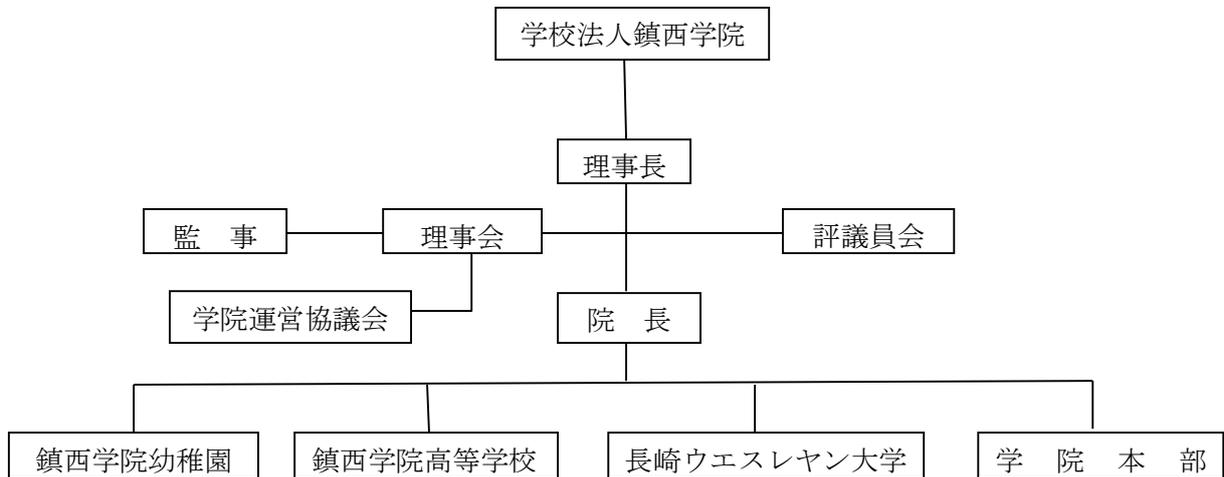
◆設置する学校等及び入学定員(2017年4月1日現在)

○長崎ウエスレヤン大学 現代社会学部 定員 140名
社会福祉学科 50名 経済政策学科 50名 外国語学科40名

○鎮西学院高等学校(全日制課程) 定員 300名
普通科 200名 商業科 100名

○鎮西学院幼稚園 収容定員 140名

◆学院組織



■ 理事会開催状況・主な審議事項

- | | |
|-------------------|---|
| ・2016年5月26日 定期理事会 | 理事・評議員の退任及び選任について
2015年度決算（案）、監査報告
2015年度事業報告 |
| ・2016年9月30日 定期理事会 | 私学事業団経営相談指摘事項と学院対応案
施設整備について
鎮西学院経営改善計画進捗状況について |
| ・2017年2月3日 定期理事会 | 監事から学院経営についての確認・質問
学院長期ビジョン策定委員会の設置について
鎮西学院幼稚園長の退任と選任について
高校野球グラウンド改修工事に対する寄付について |
| ・2017年3月30日 定期理事会 | 2016年度補正予算（案）
2017年度事業計画
2017年度予算（案） |

■ 評議員会開催状況・主な諮問事項

- | | |
|--------------------|---|
| ・2016年5月26日 定期評議員会 | 理事・評議員の退任及び選任について
2015年度決算（案）、監査報告
2015年度事業報告 |
| ・2016年9月30日 臨時評議員会 | 私学事業団経営相談指摘事項と学院対応案
施設整備について |
| ・2017年3月30日 定期評議員会 | 2016年度補正予算（案）
2017年度事業計画
2017年度予算（案） |

■ 学院創立135周年記念事業

平和大行進（8月8日）

創立記念式典（10月7日）記念講演「平和のために何ができるか」姜尚中教育顧問

鎮西学院人物伝「敬天愛人の系譜」発刊（10月）

記念番組「風響くあの丘へ～姜尚中 鎮西学院ゆかりの地を訪ねて～」KTN テレビ長崎放映（11月）

諫早市民クリスマスコンサート（12月） 新垣勉師スペシャルライブ

鎮西学院高等学校講堂耐震補強・改修工事完了。献堂式を挙げる。（3月）

鎮西学院校舎跡地（旧海軍病院跡地）に記念碑を建立。4月8日に除幕式を行う。

鎮西学院幼稚園

- ・どの子ども愛さずにおかない教職員 どの子ども伸ばさずにおかない教職員
- ・園運営に進んで参画し、民主的運営に寄与する教職員
- ・年間、月間、週間の見通しを持ち、計画的に実践する教職員（昨年度の重点）
- ・同僚と協力し、共に研鑽に励む教職員（今年度の重点）
- ・職場に誇りを持つ教職員

(3) 経営方針

「園児一人一人が、保護者と共に生かされる幼稚園」

- ・ここに園児がいて、幼稚園があつて、教職員がいる。
- ・どの子ども、未来に生きる、かけがえのない存在である。
- ・幼稚園は、園児と教職員、教職員と保護者との信頼関係の上に成り立つ。
- ・子どもは、教職員の自己変革・向上心によって、よりよく変容する

(4) 努力目標

① 計画的実践

○ 全ての行事の起案を早めに ～個人の力から組織の力へ～

個人の力量には限界がある。みんなのアイデアが出せる場と時間的余裕を確保している。

○ 協議等の時間確保のため、毎日の終礼（連絡会）を改善

- ・月、水、金は連絡会。
- ・火・木は、行事等の協議を行う職員会議、園内研究、現職教育を行っている。

○ 週案、業務記録の提出 … 第2、4火曜日

- ・2015年度より新たに担任の週指導計画（週案）及び用務の業務記録を書くこととした。
- これにより、従来に増して意図的、計画的教育（保育）を実践している。

☆② 教職員研修の充実

- ・教職員の研鑽を積むことで、より良い保育の実践が展開される。
- ・保育の質の向上のため、出張研修のみならず、2014年度より研究テーマを設定し「園内研究」の充実を図っている。

- ☆・2016年度園内研究テーマ…『学院の環境をもっと知り、楽しもう』…2014年度より継続研究成果を、3年計画のカリキュラム化した。

☆③ キリスト教保育の充実

- ・保育室での礼拝で毎日をスタートさせ、「感謝」と「思いやり」の心を育てている。
- ・ピースチャペルでの「親子礼拝」、「クリスマス礼拝・祝会」等を通して、保護者に理解してもらおうよう実施している。

☆④ 広大で緑豊かな学院全体の活用推進

- ・学院の広大で緑豊かな自然環境の中で、「心と体の健康」をのびのび育てている。
- ・「学院内遠足」を実施し、学院内を散策し、野球グラウンド外野芝生で活動。
- ・「どんぐり拾い」・「梅ジュース作り」・「探検ごっこ」・「散歩」など、多様な活動。
- ・高校グラウンドでの「運動会」、大学西山ホールでの「クリスマス礼拝・祝会」、寮前広場でのキャンプファイヤー（年長お泊まり保育、卒園生夏の集い、親子夏の集い）の実施。
- ・高校敷地に開墾した「芋畑」で、親子畝づくりと苗植え、芋ほりを実施。

⑤ 園だより・クラスだより・フォトレターを毎月発行する

- ・月々のカリキュラム（教育課程）や園・クラスの様子を「園だより」や「学級だより」、写真を多数載せた「フォトレーター」により知らせ、保護者との信頼関係を構築している。

⑥遠足の充実

- ・4月の歓迎親子遠足は、鎮西学院高校の大型バスに協力いただいて、現地までバスで行く遠足を実施。
- ・学院内遠足を、年3回実施。

⑦「園長教室」の実施

- ・2014年度より、年長クラスでかな文字表記につながる「ことば遊び」など、小学校につながる要素で実施。

⑧学校評価の推進

- ・教職員による自己評価を実施し、教育の目的と内容を再確認し、改善を推進。
- ・毎月の保護者役員会で、行事等についての具体的な評価をいただき、園運営に反映させ、「開かれた園づくり」として、「安心と信頼の構築」を図っている。

2、施設、設備及び環境整備

☆保育料の値上げによる整備

- ・2016年度から月保育料を500円値上げし、3カ年で1,500円値上げしている。それにより、園舎の施設・設備を整備する。

(1) 保育室前廊下の整備

屋根はついているが雨風に晒されるため、廊下が傷んでいた。年度初めに研磨と再塗装を実施した。

(2) 園庭整備の推進

①砂場及び泥遊び場の整備充実を図っている。

幼児教育の中で泥遊び・砂遊びはとても重要。定期的な砂場の清掃はもちろん、梅雨時はテントを張るなど、年間を通して利用できるようにしている。

②遊具の美観と腐食防止のため、園庭内遊具のペンキ塗りをこまめに実施している。

③園庭美化のため芝を刈り、緑の美しい園庭を保持している。

- ・緑の芝生の上で子どもたちを素足で遊ばせている。

(3) 園舎老朽化への対応

- ・築46年の建物である（1970年1月10日落成式）
- ・建替えも視野に入れた大きな検討課題である。（→「5. 学院内検討会議の設置」）

3、危機管理

- (1) 子どもの生命、健康を預かっているとの使命感を持ち、学期ごとに全職員で安全点検する。
- (2) 園児の避難訓練を、年間を通して実施。（各学期2回、年6回実施。不審者、火災、地震）
 - ・とくに不審者対策では、正門前の運行部にも協力をお願いしている。
- (3) 夜間、休日の防犯管理は警備会社に委託し、警備体制をとっている。
- (4) 不審者対策の道具『ネットランチャー』『さす股』及び『ガス噴射器』を設置している。

4、園児募集対策

☆園児確保の最大の力は、在園児保護者や家族の評価・評判が最大の広報となることを日々肝に銘じながら、以下の取組を行っている。

(1) 広大で緑豊かな学院全体の活用推進

鎮西学院幼稚園最大のアピールポイントである。前述の活動(努力目標④)を展開している。

(2) 外注弁当に加え「パン給食」の導入

- ・2010年度より週1回月曜日を全員給食(外注弁当方式)を実施している。
- ・2014年度より、新たに週1回「パン給食」を希望制で導入。かねてより給食の日数を増やしてほしいという要望があったものに、こたえたもの。

☆ (3) 未就園児と親子のつどいの推進(オープンキャンパスの一環)

保育主任主導で

- ・月3回程度「おひさまくらぶ」(2歳以上対象)を実施。
- ・学期毎に1~2回「グリーンクラブ」(1歳以上対象)を実施。
- ・次年度の新入園児に結びつくことから、参加者増のための広報に力を入れてきた。

☆ (4) 行事の充実と保護者会(ひかりの会)との連携推進

- ・キリスト教行事は元より、日本的な行事をはじめ多様な行事の充実に努めている。
- ・保護者の参加型行事を計画し、幼稚園への理解・協力を深めてもらう機会とし、幼稚園の活性化にもつなげている。(親子歓迎遠足、親子礼拝、親子で楽しむ夏の夕べ、親子で芋畑の畝づくりと芋苗さし…)
- ・ミニ講演会の開催
お母さん方に子育てに役立つ講演を提供する。子育てを考える機会とし、子育て仲間として共に語り合える関係をつくる。
- ・園運営について、毎月保護者会役員会で説明責任を果たすとともに、行事等について率直な意見、要望を聞き、連携に努めている。
- ・今年度は新たに、園長が“子育て”“ひらがな”に関する講習会を実施した。

☆ (5) 預かり保育の充実

- ・仕事をしておられるお母さん方への子育て支援の一環として、保育者2人体制で実施。
- ・夏期休暇中に、「長崎ペンギン水族館」及び大村「野岳水辺の森公園」への遠足を実施。

☆ (6) ホームページによる情報提供、宣伝活動の充実

- ・2014年2月にホームページを完全リニューアルした。
- ・本園の特色を具体的にアピールするために、日常の活動の様子をこまめに発信している。また、諫早の町ブログにもつなげている。
- ・これにより、保護者への情報提供や説明責任を果たすとともに、市民へもアピールする。
- ・さらに、インターネットによって幼稚園を検索する保護者への広報とする。

☆ (7) 教職員研修の充実

- ・前述のような園内研究、現職教育に加え、外部研修に参加し伝達研修をすることで、教職員の研鑽を積んでいる。その実践が保護者の信頼へとつながり、園児確保の基盤となる。

5、学院内「検討会議」の設置

- ・2015年度から「子ども・子育て新制度」が発足した。この制度にどのように対応していくか検討するための『**幼稚園新制度・検討会議**』を、2014年度に設置し協議している。
- ・検討会議のメンバーは、次のとおり。

院長、事務局長、総務課長、会計課長、園長、幼稚園主任

- ☆・**新制度への移行時期とそのあり方**を検討し、2018年度に新制度へ移行すると決定した。
- ・さらに、園舎が老朽化していることと、新制度へ対応できる園舎であるために、「**園舎再整備検討会議**」を2016年4月に立ち上げ、園舎の新築または増改築について協議している。
- ・この会議では、新制度への対応に関係しつつ、**幼稚園の中・長期のあり方**を検討していく。
- ・なお、検討事項については学院幹部会で報告を行う。

鎮西学院高等学校

2016年度 鎮西学院高等学校事業報告

I 教育の充実

(1) 建学の精神の推進とキリスト教教育の実践

- ① 2016年度目標聖句「確かに未来はある。あなたがたの希望が断たれることはない。」が与えられ、創立135周年を迎えた2016年度が神によって導かれ、未来に希望をもって1年間の歩みを終えることができた。
- ② 創立135周年記念礼拝を諫早文化会館において説教者として福岡女学院院長寺園喜基先生をお招きして行なわれ、その後本学院教育顧問の姜尚中先生による記念講演が行われました。両先生の説教や講演を通じて、鎮西学院の存在意義をあらためて考える機会となった。
- ③ 創立135周年記念事業として、耐震工事を兼ね講堂のリニューアル工事を行った。
- ④ 近隣の牧師先生方の協力を得、特別礼拝や宗教講話日礼拝を守ることができた。このことは生徒や教職員にとってもよい刺激になった。2015年度に引き続き、「年に一度は教会へ」という目標を立て、生徒や職員に教会の礼拝に出席を勧めてきたが、年々出席者が減少しているため、地区の教会との連携をさらに強化していく必要がある。
- ⑤ 物故職員記念礼拝、1年生修養会、創立記念礼拝、学校クリスマス等の宗教行事を通して、鎮西学院の建学の精神である「神を敬い、人を愛する」ことを学ぶことができた。
- ⑥ 創立135周年にあたるこの年、多くの犠牲者を出した被爆当事校として、本学院教育顧問でいらっしゃる姜尚中先生に加わっていただき平和大行進を実施するなど積極的に平和教育に取り組む活動を行うことができた。
- ⑦ オープンキャンパスやPTA総会時に聖書朗読・讃美歌斉唱・祈りをもって実施することにより、地域住民や中学生に本学院の建学の精神をアピールする機会とすることができた。

(2) 学習指導・進路指導の充実

- ① 2016年度の進路実績は、九州大学（3年連続現役合格）、東京外国語大学、広島大学、熊本大学、長崎大学、鹿児島大学、佐賀大学、長崎県立大学、上智大学、東京理科大学、中央大学、明治学院大学、西南学院大学、長崎ウエスレヤン大学等国公立大学合格者は32名（4年連続合格者30名以上）で、私立大学は合格者116名の好成績であった。就職関係では諫早市役所、海上保安学校、長崎県警、対馬消防署、自衛官等の34名の公務員合格（3年連続30名以上合格）や、一般企業では粕谷製網、ウラノ長崎工場等内定率6年連続の100%を達成することができた。進路実現に向けて生徒と教職員が一丸となって取り組んだ結果である。
- ② 資格取得状況
英語検定 2級 16名、準2級46名、3級 74名

漢字検定 準2級 7名、3級 15名

PC検定 準2級 4名、3級 113名

電卓1級10名 簿記1級2名、3種目1級1名

- ③ 2016年度の長崎ウエスレヤン大学との高大連携プログラムにおいてゼミ訪問を実施し、長崎ウエスレヤン大学に対する関心を高める努力をしたが、内部進学者は37名（前年度比+12）であった。

(3) クラブ活動の充実

2016年度高校総体では卓球部女子、サッカー部女子、男子駅伝が優勝し、3本の優勝旗を獲得できた。男子陸上部は、17年ぶり13度目の優勝を果たし、創部50周年の記念の年に頂点に立つことができた。女子サッカー部は2016年度長崎県公式大会は無敗を達成し、九州高校総体では準優勝を果たした。

また、長崎県高総体新人戦において卓球女子、卓球男子、サッカー女子、男子駅伝体操女子が優勝することができ、来年度の高校総体に期待が持てる結果を残してくれた。文化部では、吹奏楽部が長崎県吹奏楽コンクールで22年連続金賞を受賞し、マーチングコンテストでは長崎県大会で金賞を受賞し、九州大会でも金賞を獲得することができた。

(4) 生徒指導の充実

- ① 今年度も、昨年度同様、生徒指導上の問題行動で特別指導を受ける生徒が減少した。これも各学年の学年集会、クラスでの細かい指導があったからだと思う。ただ、残念ながら特別指導を受けることはなかったが各学年で厳重注意を受けた生徒が若干いた。また、再三の注意に従うことの出来ない生徒もいるので、今後も根気強い継続的な指導をしていかなければならない。
- ② 全体集会、学年集会、授業で注意があっているにもかかわらず、ネット上に個人情報や写真を載せてネットパトロールからの連絡で指導(今年度2件)を行った。また、Twitter・LINE上での誹謗中傷の書き込みからも指導することがあった。
- ③ 部活動による自主的な清掃活動や挨拶運動など、生徒の取り組みの意識が高まった。
- ④ いじめや体罰についての研修会を行い、安心・安全な学校作りに努めてきた。今後も他校の取り組みを参考にするなど、一層充実した研修を行っていきたい。

(5) 学校力の強化

- ① 目標設定・自己申告制度の定着化を図ることにより、教職員の意識改革につなげることができた。また、教職員からの学校活性化への提言はほとんどが建設的なものであり、今後も現場の改善につなげていきたい。教職員に対する面談（教頭対応）を実施することにより、管理職とのコンセンサスを図る機会となった。
- ② 学力診断テストスタディサポートのデーターを基に、業者による校内研修を実施した。これにより生徒の実力確認と今後の対応策を図ることができた。2014年度より、スタディーサポートの伸び率の高い生徒及び一定以上の成績を収めた生徒には励みになるよう全校表彰を行ってきたが、年々表彰者の数が増えている。
- ③ 基礎学力向上を図ることを目的に全校で学び直しの学習システム「マナトレ」を

実施して4年目になるが取り組みも徐々に定着し、学力の底上げがなされている。まとめテストや認定テストでの不合格者に対しては学年会と基礎学力向上委員会が協力し、放課後の時間を活用し学習指導に当たってきたが、学習参加者が初年度よりのべ1500名以上増加するなど、意欲的に学習に取り組む生徒が増えてきた。

- ④ 一般進学コースの入学生に対して、タブレット端末を貸与し、自宅や遠征先においてもe・ラーニングによる学習課題に取り組めるようにした。
- ④ 2016年度生徒異動状況
転入1名 転出11名 休学1名 復学1名 退学2名 原級留置1名
入学時よりの生徒数減少率1.6%（全私学県平均4.59%）

(6) 国際交流の推進

- ① 姉妹校であるアップルビーカレッジとの交換留学（2名派遣、2名受け入れ）、ロータリークラブ等との交換留学（1名受け入れ）を実施した。
- ② これまで異文化を理解して受け入れることのできる人間を育てることを目的に、海外修学旅行（シンガポール、マレーシア）を実施してきたが、生徒や保護者のニーズに応える形で、2015年度からは旅行先をオーストラリアと台湾の二班に分けて実施した。生徒・保護者の評判は概ね良好であった。
- ③ 11月4日長崎市と上海市が友好交流関係を結んでいる縁で、中国・上海市の華東師範大付属双語学校との姉妹校提携を締結した。華東師範大付属双語学校は、2015年に創立された、国際的に通用する人材育成を目指し、幼稚園から高校までの600人が学んでいる総合学園である。今後、教職員や生徒間の交流を進めていきたいと考えている。

(7) P T A・校友会との連携

- ① 体育祭、文化祭、市民クリスマス等の学校行事や私学振興大会にも積極的に参加していただくようはたらきかけた。今後も常に開かれた学校として、保護者が気軽に授業見学、相談ができる体制を整えていきたい。
- ② 県下7地区において地区P T Aを実施した。保護者会では多くの意見や要望が出されたが、出席した教職員の誠意ある対応により保護者との信頼関係を築くことができた。
- ③ 長崎からの平和大行進や予餞会時の豚汁会には、校友会の方々にも積極的に参加していただき、有意義なひと時を過ごすことができた。

Ⅱ 生徒募集対策

- ① 2017年度入学生は313名で、学則定員300名に対し13名超であった。
科、コース別では、普通科国公立大学進学コースが48名（定員50名）、一般進学コースが165名（定員130名）、商業科78名（定員100名）であった。今年度新設の普通科公務員コースは定員20名に対し22名の入学者であった。
- ② 受験者数は昨年度とほぼ同数（+8名）で近隣実業系公立高校の不合格者数も昨年に比べ+6名であった。諫早・大村地区の進学校においては昨年に比べ不合格者数が73名増えた。国公立大学進学コースへの入学者数にはあまり反映しなかったが、

一般進学コースへの入学者数を押し上げる結果となった。また、部活動B奨学生の条件で本校希望者が増えたことも定員確保につながった。

- ③来年度は県内において中学3年生が約670名減少する。諫早地区の減少傾向も顕著で今後回復傾向が見込めないことから新たな募集のあり方が不可欠となる。経営戦略を明確にし、留学生の受け入れや公務員コースに次ぐ魅力あるコースの設置に取り組む必要がある。

Ⅲ 施設・設備整備の充実

- ① 講堂耐震補強および改修工事（2億800万円）※国・県からの補助金8千300万円
- ② 講堂横トイレ改修工事（351万円）
- ③ 剣道場床張り替え工事（488万円）

長崎ウエスレヤン大学

学校法人鎮西学院 長崎ウエスレヤン大学 2016 度事業報告

1. 教学改革の進捗状況と産学官連携の推進

1) カリキュラム改革の進捗

カリキュラム改革の2年目にあたる2016(平成28)年度は、基盤教育センターを基盤教育の運営組織として学則上に位置付け、各学科の専門教育との連携による体系的なキャリア教育の体制強化に努め、「就職基礎モジュール」の円滑な運営、コミュニティサービスラーニング・プログラムの共通ルーブリックの策定をはじめ、企画運営体制の整備を行った。

また、3つのポリシー(ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー)の見直しを行った。併せて、高大接続、社会人の学び直しニーズ、優秀な留学生受け入れの観点から、入学前の既修得単位や資格・検定の単位認定等、本学以外の教育機関等における学修成果の認定方法を明確化した。

【2016年度 コミュニティサービスラーニング・プログラム開設・受講状況】

	プログラム名	受講者数
1	諫早地域の資源調査、地域産品の加工実践、商品開発研究など	16
2	命の源流『食』を学ぶ会	15
3	観光と食を活かした長崎県県央・県南の地域国際化とまちづくり	25
4	長崎市・諫早市・九州地域における地域活動及びまちづくり体験学習	17
5	BIGBANDで明るいまちづくり	8
6	「風の舎」ピアサポート活動	10
7	当事者ミーティング(セルフヘルプミーティング)体験	10
8	福祉教育関連企画支援プロジェクト	8
9	子どもの支援プログラム	16
10	こどもの城プレイリーダー	15
11	Academic, Cultural International Events or Activities Support Program	14
12	交流さんぽ会	20
13	GGLC: Games and Gamification with Learning Community	9
14	地域づくりの学びと実践	10
15	福祉施設活動支援	5
16	会社 PR プレゼンター	3

2) 全学的キャリア支援体制の成果

初年次からの一貫したキャリア支援プログラムの強化の結果、2016年度卒業生の進路達成状況は以下の通りとなった。

【就職・進路実績】

- 就職率 87.5% ※2015年度 92.6%、2014年度 89.3%
 就職者 56人 ※就職希望者 64人／卒業生 83人中
 (内訳) 一般企業 38人 福祉関係 15人 公務員 2人 教員(高校) 1人 / 県内 33人 県外 23人
- 学科別就職率 ※カッコ内は前年度就職率
 社会福祉学科 87.5%(97%)、経済政策学科 88%(100%)、外国語学科 86.7%(75%)

- 福祉関係国家資格合格率 ※カッコ内は全国平均
 社会福祉士受験 合格者 6人 合格率 35.2%(25・8%)
 精神保健福祉士受験 合格者 5人 合格率 83.3%(62.0%)
 W受験 合格者 4人 合格率80%
- 主な就職先：長崎県(社会福祉)、愛知県警察、織田病院、のぞえ総合心療病院、ジャパネットホールディングス、マックスバリュ愛知、がんこフードサービス
- 進学先(大学・大学院)：慶応義塾大学大学院、星槎大学共生科学部共生科学科、長崎県立大学、College of Asian Scholars(タイ)

【資格取得支援】※カッコ内は15年度実績

- 情報処理関連資格 CS検定 ワープロ部門:3級 27人(23人)合格・同2級 3人(3人)合格
 表計算部門:3級 15人(7人)合格・同2級 1人合格
- 英語教育 TOEIC(IP) 受験者数: 42人(43人) 最高スコア: 935点(935点)

【就職活動支援】

- 個人面談 4、3年生共に相談件数が大幅に減少
 4年生(在籍 83名): 292件を実施(学生1名平均3.5回)(昨年度438件)
 3年生(2018卒:在籍105名): 78件の面談(学生1名あたり約0.7回)(昨年度97件)
- エントリーシート・履歴書の添削
 企業研究がしっかりできていない学生が依然大半を占めるため、応募書類の作成時には添削に多くの時間を要している。
- 面接練習
 3年次「就職ガイダンス」不参加の学生が大多数で、個別の練習が初めてという学生が非常に多い。
- 合同企業説明会引率
 福岡・長崎等で開催される説明会へバスを運行し、教職員が引率。バス車内で合説の歩き方を確認。企業説明会后「訪問企業振返り」をさせ、その後の活動をフォローしている。

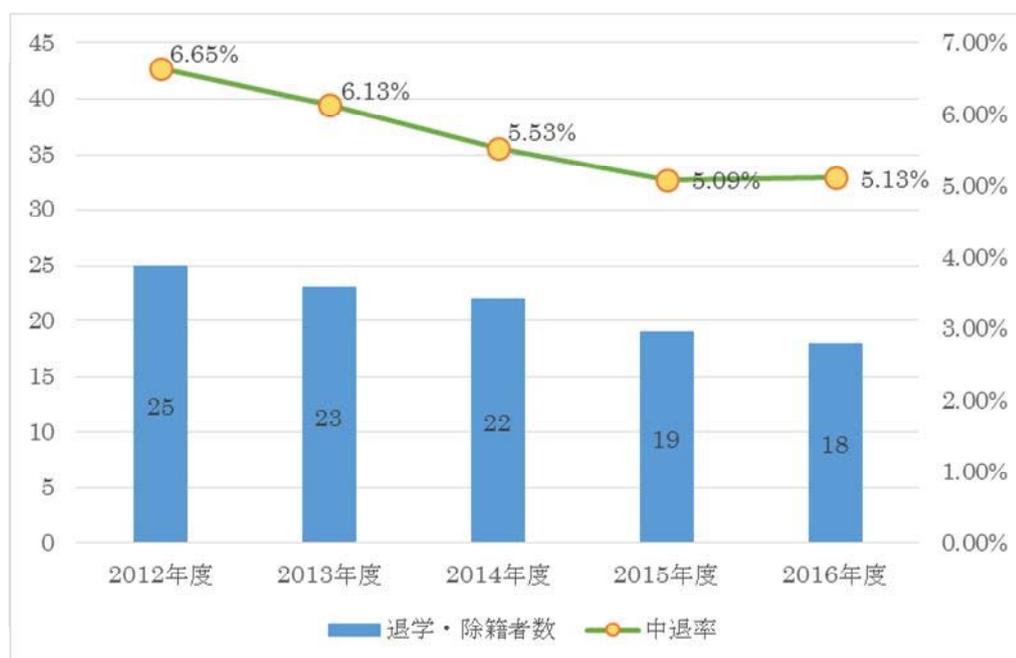
【キャリア支援プログラム】

- 「就職ガイダンス」開催
 前期7回、後期10回の講座にのべ140名が参加(出席平均8.2名)。
 全17回の内13回を外部講師に委託(自己理解・マナー、メモキャップ、就活サイト活用、仕事研究、エントリーシート実践、グループディスカッション、面接実践、合説歩き方)。マイナビ主催で就活直前対策講座を2017年2月17日(金)に学内で開催。全学科へ周知徹底し、26名出席。
- インターンシップ(旧カリキュラム)
 事前学習(90分×8回)、事後学習(レポート提出とそれを基に面接)を行い、実習効果向上を狙った。レポートと面接で判断する限り効果は認められる。受講者は10名と前年の15名より減少。

3) 中退予防

学科を中心に、キャンパスソーシャルワーカー、学生支援課、学生委員会との一体的かつ総合的な学生支援体制のもと、中退予防に取り組んだ結果、退学・除籍者数は対前年度微減となった。中退率は母数となる学生数減少のため微増となった。

【退学・除籍者数と中退率の推移】



4) 地域連携・産学官連携への取り組み

2014(平成26)年度より参画している文科省委託事業「成長分野の中核的専門人材養成事業」を通して、観光地域づくり人材養成をテーマに、雲仙温泉観光協会等との産学連携のもと、社会人の学び直しプログラムとして、公開講座の開催、eラーニング教材の開発に取り組んだ。

また、諫早市教育委員会との連携により、諫早市内の中学生対象のイングリッシュキャンプによる英語教育に継続的に取り組むこととなった。

【2016年度 受託事業一覧】

調査・事業名	委託元	金額
平成28年度「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業 “長崎発 観光地域づくり中核人材養成プログラム”	文部科学省	14,949 千円
平成28年度イングリッシュキャンプ開催事業	諫早市	150 千円
韓国人・中国人留学生から見たグラバー園の観光資源調査	株式会社昭和堂	50 千円
まちづくり研究室・生涯学習室の運営	諫早市	—
計		15,149 千円

5) グローバル化への対応

アジア5地域(韓国・中国・台湾・マレーシア・日本)の大学間交流協定「AU+」を締結するとともに、高等教育段階の観光・ホスピタリティ分野の人材養成をテーマとした国際会議を開催した。

また、引き続き、キャンパス内での国際交流、交換留学や海外CSPなどのプログラムへの学生の積極的参加・参画を促し、「国際的に有為な社会人」に必要なシティズンシップを養成する機会を多く設けた。従来タイ、フィリピン、カンボジアにおける海外CSP、スタディツアーに加え、韓国提携校の留

学生を対象とした1か月の超短期プログラム、長期インターンシップ生の受け入れを行った。新たにインド・Ramaiah Institute of Business Studiesと包括交流協定を締結した。

6) 長崎県私立大学間連携協定事業の開始

教育研究の一層の発展、教育内容の充実、人材の育成及び地域社会への貢献等に関する大学間の交流を推進することを目的に、長崎県内4大学(活水女子大学、長崎ウエスレヤン大学、長崎外国語大学、長崎総合科学大学)による連携協定を締結し、締結初年度の連携事業として、本学を会場にIRをテーマとしたスタッフ・ディベロップメントを実施した。

2. 学生募集・広報活動の状況

1) 学生募集活動

【定員充足率の推移】カッコ内は充足率

	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
在籍学生数	398 (62.2%)	373 (60.2%)	351 (58.5%)	343 (59.1%)
1 年次入学者数 (内訳)	105 (75.0%)	72 (51.4%)	88 (62.9%)	97 (69.3%)
経済政策学科	28 (56.0%)	16 (32.0%)	26 (52.0%)	41 (82.0%)
外国語学科	45 (112.5%)	38 (95.0%)	41 (102.5%)	36 (90.0%)
社会福祉学科	32 (64.0%)	18 (36.0%)	21 (42.0%)	20 (40.0%)

a. 学院内入試の強化

従来から取り組んでいる全学年対象の本学単独の進学説明会(年5回)、保護者会総会での説明会(年3回)、高大連携講座、ゼミ訪問ラリーの質的強化を図り、学生募集の基盤となる学院内進学者37人を得た(目標50人)。

b. 入試制度の見直し

学力の3要素を踏まえた多面的・総合的に評価する入学者選抜の取り組み強化として、英語をはじめとする各種資格・検定試験合格者の入試における加点・試験免除制度、課題研究やプロジェクト学習等の評価を導入し、特待生制度と連動させることにより普通科のみならず実業系高校からの志願者増に取り組んだ。

c. 高大連携の強化

高校生福祉フォーラム、諫早農業高等学校との地域特産品開発等の高大連携事業に取り組み、教育プログラムの連携を図った。

e. 高校訪問の重点化対策

長崎県央地域・島原半島を最重点エリアとしつつ、長崎市内高等学校及び長崎県外へのアプローチに重点を移していく。進学実績校については毎月の訪問を実施する。3月、7月、8月のオープンキャンパス開催時期、9月・1月の受験校決定時期に合わせ、資料請求者・進学実績のある九州全域の高校訪問に取り組んだ。

f. 多彩な広報活動の展開

年間の特色ある教育研究活動については、逐一プレスリリース、Facebook、LINEをはじめとするSNSでの情報発信に年間を通じて取り組んだ。

地元諫早市立図書館や長崎空港等のパブリックスペースでの展示を行い、認知度のアップに努めた。

g. 長崎ウエスレヤン大学ビッグバンドプロジェクトによる成績優秀者の確保

ビッグバンドの大学指定強化サークルを立ち上げ、県内進学校をはじめとする高校の吹奏楽経験者の取り込みを図るとともに、近隣のイベント等への派遣により地元の認知度アップに努めた。

d. オープンキャンパス実施状況

【オープンキャンパス集客状況推移】

	2014 年度	2015 年度	2016 年度
高校生計	152	74	107
高3	35	41	53
高2	15	32	9
高1	1	1	4
運動部企画	101	0	41
社会人・その他学生	5	7	25
シニア	1	1	3
一般(保護者他)	41	33	38
合計	199	115	173

h. 留学生募集の強化

これまで大学間交流協定を締結してきた大学に加え、特に中国、韓国、台湾の短期高等教育機関との協定を拡大し、職業実践的な教育プログラムの開設により、編入留学生の確保に取り組む。このため、半年から1年間の交換留学制度、4か月程度の長期インターンシップ・プログラム、1か月程度の語学研修プログラムなど、多様な学生交流プログラムを整備した。

【留学生入学者推移】

	2014 年度		2015 年度		2016 年度		2017 年度	
	4 月	10 月						
1 年次	35	7	31	14	34	18	25	-
うち私費	21	1	17	8	18	11	11	-
うち交換留学生	14	6	14	6	16	7	14	-
3 年次	23	7	33	6	21	4	14	-
うち三年次編入	8	7	8	3	7	2	5	-
うち短期	15	0	25	3	14	2	9	-
学部生合計	58	14	64	20	55	22	39	-
日本語教育プログラム	27	34	26	32	40	37	26	-
留学生合計	85	48	90	52	95	59	64	-

3. 財務

1) 中期経営改善計画

「学校法人鎮西学院 経営改善計画(2016-2020年度)」(2015年理事会決定)に則り、2016(平成28)年度から2020(平成32)年度の5か年で収容定員580人を確保することにより、短期・長期の借入金の返済をしつつ、計画最終年度における帰属収支差額を黒字化することを目標に財務改善に取り組んでいる。

しかしながら、依然として大学教育改革の取り組み実績を学生募集に反映できず、定員割れ(収容定員超過率58.5%)により、財務改善につながらない状況が続いている。

教職員の協力により、学納金に占める人件費(人件費依存率)の割合はほぼ前年度並み(微減)を保っており、短期借入金の削減は達成したものの、経常収支差額比率の赤字率が増える結果となった。

なお、この経営改善の取り組みは、日本私立大学振興・共済事業団の特別補助「経営強化集中支援事業タイプB【経営改善型】」として選定され、35,646千円の補助金増額となった。

2) 大学改革の成果(文部科学省 私立大学改革総合支援事業 選定状況)

2016年度は、タイプ1「建学の精神を生かした大学教育の質向上」(選定率53%)、タイプ4「グローバル化への対応」(選定率40%)に加え、タイプ2「特色を発揮し、地域の発展を重層的に支える大学づくり」(選定率43%)に選定された。

この結果、特別補助30,488千円、私立大学等教育研究活性化設備整備費10,724千円の増額となった。

この補助金により、eラーニング環境整備の一環としてクリッカーや外国語CALL教材、eポートフォリオシステムのリニューアル等の整備を行った。

※私立大学等改革総合支援事業：「大学力」の向上のため、私立大学等が組織的・体系的に取り組む大学改革の基盤充実に図るため、経常費・施設費・設備費を一体として重点的に支援される。

4. その他の主な教育研究活動

<2016年度累積 GPA 学年別平均>

	年度	1年	2年	3年	4年
平均	2016年	2.48	2.59	2.52	2.52
	2015年	2.49	2.3	2.45	2.49
最高	2016年	3.76	3.72	3.82	3.76
	2015年	4	3.84	3.84	3.81
最低	2016年	1.07	1.19	1	1.28
	2015年	0.08	0.27	0.06	0.81

<学長賞・成績優秀賞>

学長賞・・・卒業時に、4年間で卒業要件を全て充足し、かつ累積 GPA が 3.50 以上の上位の者、若しくは学期毎に、20 単位以上を修得し、かつ累積 GPA が 4.0 以上の者。

2016 年度前期・・・なし、2016 年度後期・・・4 年生 1 人

成績優秀賞・・・学期毎に、20 単位以上を修得し、GPA が 3.50 以上の者。

	1 年	2 年	3 年	4 年
前期	3 人	6 人	5 人	0 人
後期	4 人	3 人	10 人	4 人

<障害学生の在学状況>

聴覚障害学生	肢体不自由学生	その他	計
0 人	2 人	2 人	4 人

<地域連携>

市民公開講座の開催

『Can Challenge!! パパとママ ～がんを見つめる子どもとあなた～』

・2017 年 2 月 11 日(土) 本学西山ホール 参加者 72 名

12 日(日) 出島交流会館 参加者 28 名

科目等履修生の受入状況

前期・後期 計 9 名 (英語コミュニケーション、韓国語、中国語入門、社会言語学、教育心理学等)

※日本語教育プログラム受講生を除く。

<高大連携関連事業報告>

鎮西学院高等学校との高大連携について、「高大連携講座」に年間を通して取り組むとともに、昨年度に引き続き「ゼミ訪問ラリー」を実施し、ゼミの雰囲気を感じてもらい、大学教員や学生との交流を図ることで、本学への理解を深めてもらうことができた。

また、九州福祉系高校教員研究セミナー、高校生福祉大賞コンテストを開催し、高校における進路指導の動向や、高校生の進路選択についての調査研究、高校生を対象とした福祉啓発事業を継続して行なった。

<学術研究>

学会補助

本学を会場として開催した下記の学会において、補助をおこなった。

学会名	開催日	補助額
日本社会福祉学会九州地域部会 第 57 回研究大会	2016 年 6 月 18 日(土)～19 日(日)	253 千円
第 7 回日本医療ソーシャルワーク学会	2016 年 9 月 10 日(土)～11 日(日)	100 千円

個人研究費の配分状況

2016 年度の個人研究費については、財務逼迫の折、昨年同様 150 千円の配分となった。

地域総合研究所共同研究費の配分状況

研究代表者	職位	共同研究課題一覧
佐藤快信	教授	ふれあい・いきいきサロンの効果と今後の支援方策についての調査
加藤久雄	准教授	旧大村領から五島列島への潜伏キリシタンの集団『移住』にともなう墓制の研究2. -外海・平戸地域の17～18世紀の潜伏キリシタン墓制の探究と比較を通して-
矢島邦昭	教授	自治体、高校、大学連携による商品開発・地域活性化・教育プログラム開発研究
開 浩一	准教授	キャリア支援に関する社会福祉学会の実践的研究 —学会組織を基盤にしたキャリア支援の効果をめぐって—
佐藤茂春	准教授	楽観性バイアスと法制度の相互関係の解明:実証と実験

科学研究費助成事業の獲得状況

2016年度の科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)は、新規採択1件、研究分担金はないであった。

研究種目	研究代表者	研究課題		
基盤研究 (C)	吉野浩司	初期ソローキン社会学にみる利他主義研究の萌芽 —ロシア時代の未公開・新資料の分析		
		交付額	直接経費 1,000千円 間接経費 300千円	1,300千円

また、「2017年度科研費」申請件数は7件であった。

<体育系部活動の主な成績>

クラブ名	大会名	結果
バレーボール部 (男子)	九州大学春季バレーボールリーグ(佐賀)	3部6位 4部降格
	九州大学秋季バレーボールリーグ(宮崎)	4部優勝 3部昇格
卓球部	全九州秋季卓球大会(福岡)	男子団体5部3位 男子シングルス・ダブルス出場 西山優輔・古川裕也・松浦将大
体操競技部	第64回九州学生体操競技選手権大会	女子個人総合 第4位 寺田葉月
	第66回西日本学生体操競技選手権大会	女子個人総合 第51位 寺田葉月
硬式テニス部	九州学生テニス連盟春季テニス大会 (九州インカレ)	中川倫5回戦、有江龍太郎3回戦、 山本怜央2回戦、秋島弘明2回戦
	九州学生テニス連盟夏季テニス大会	中川倫2回戦、有江龍太郎3回戦、 山本怜央4回戦、秋島弘明2回戦
	雲仙国際テニストーナメント	有江龍太郎(ベスト8)
	諫早市長杯ダブルス	秋島・有江(3位)

ジョギング部	第 30 回五島列島夕焼けマラソン	出場 20Km 山口一生、川崎隼佑、中本雄大、 長濱翔平、深井大介
	第 8 回ハウステンボスリレーマラソン	4 位
	第 19 回たびら中瀬草原クロスカントリー大会	出場 5Km 山口一生、川崎隼佑、中本雄大、 長濱翔平、深井大介、永尾勢矢
	第 3 回親和銀行 5 時間リレーマラソン	出場